



トビタテ!
留学JAPAN

その経験が、未来の自信。

官民協働海外留学支援制度

～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム 地域人材コース

いわて協創グローカル人材育成プログラム

令和元年度活動報告書



いわてグローカル人材育成推進協議会

目 次

いわて協創グローカル人材育成プログラムについて.....	1
令和元年度年間取組状況	2
令和元年度派遣学生一覧	3
派遣学生報告書	4
(1) 岩手医科大学 佐々木 拓渡.....	4
(2) 一関工業高等専門学校 榊原 優太	6
(3) 岩手大学 佐々木 毬菜	8
(4) 岩手大学 田幸 初葉	10
(5) 岩手大学 千葉 夕里奈	12
(6) 岩手大学 柴田 史那	14
(7) 岩手大学 千葉 さりな	16
(8) 岩手大学 和野 彩月	18
「ふるさと発見!大交流会 in Iwate」ブース出展.....	20
「いわてグローカル人材育成推進協議会」会員企業・団体	21

いわて協創グローカル人材育成プログラムについて

1 目的

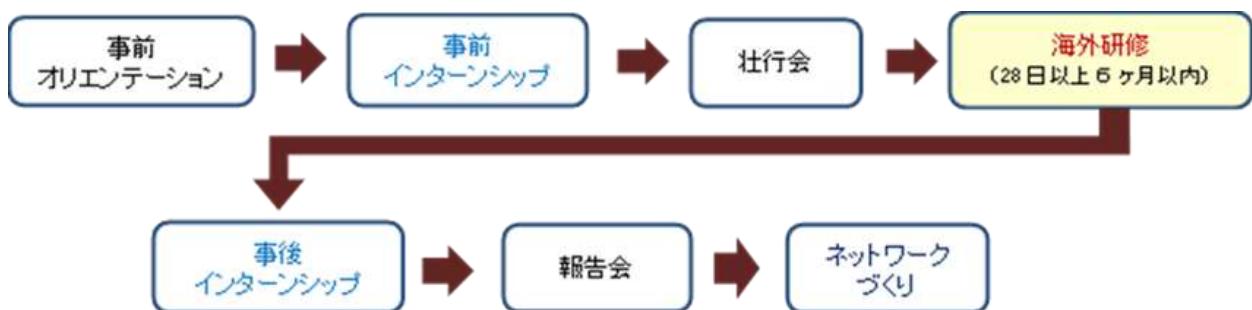
地域のグローバル化を促進するため、学生の海外留学や地元でのインターンシップ等を行うことにより、地域の活性化に貢献する人材を育成することを目的に、文部科学省「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～地域人材コース」を活用し、県内学生の留学を支援。

2 プログラム

- A. 県産品販路開拓人材育成プログラム
- B. ものづくり産業海外展開人材育成プログラム
- C. 交流人口拡大促進人材育成プログラム
- D. 持続可能型地域づくり産業人材育成プログラム
- E. 多様性人材育成プログラム

3 プログラム構成

参加学生は留学期間前に事前オリエンテーションに参加し、県内企業などでの事前インターンシップを行った後、28日以上6ヶ月以内の海外留学・研修を行う。帰国後は、研修成果を地域に還元することを目的に、地元企業での帰国後のインターンシップを実施。(インターンシップは事前・事後合わせて20日程度)



4 令和元年度実施スケジュール

令和元年4月9日(火)	申請書類提出期限
令和元年4月16日(火)～26日(金)	第一次審査(書類審査)
令和元年5月11日(土)	第二次審査(面接審査)
令和元年6月23日(日)、7月7日(日)、28日(日)	事前オリエンテーション
令和元年8月6日(火)	地元壮行会
採択後から留学開始前	事前インターンシップ
令和元年7月～12月	日本代表合同事前研修(1泊2日)
令和元年8月10日(月)以降	海外留学の開始
留学後速やかに実施	事後インターンシップ
日本代表合同事後研修	留学後

令和元年度 年間取組状況

実施内容	
4月	4月9日(火) 第Ⅱ期募集締切
	4月12日(金) 第1回運営委員会
	4月16日(火)~26日(金) 第一次書面審査
5月	5月10日(金) 事務局打合せ(岩手大学・県国際交流協会・県)
	5月11日(土) 第二次面接審査
	5月29日(水) 協議会総会・第9期生報告会
6月	6月12日(水) 事前オリエンテーション打合せ(岩手大学・事務局)
	6月23日(日) 第1回事前オリエンテーション(ビジネスマナー等)
7月	7月7日(日) 第2回事前オリエンテーション(企業とのワークショップ)
	7月19日(金) プロジェクトミーティング①(事務局・各大学等)
	7月28日(日) 第3回事前オリエンテーション(海外での危機管理、留学計画の最終確認)
	7月28日(日) 全国壮行会
8月	8月6日(火) 地元壮行会、岩手県知事との懇談
	8月6日(火) 留学計画の確認打合せ(事務局・各大学)
	8月22日(木) 第2回運営委員会
9月	9月3日(火) 関係団体との打合せ
	9月5日(木)~7日(金) 地域コーディネータープログラム研究会(島根県松江市)
	9月19日(木) 外国人雇用に関する企業向けセミナー(会員企業等)
10月	10月18日(金) 協議会会員団体訪問
11月	11月20日(水) 企業訪問(岩手大学との共催・会員企業2社)
	11月21日(木) 第3回運営委員会
	11月23日(土) ふるさと発見!大交流会 in Iwate に出展 PR(岩手産業文化センター)
	11月30日(土) グローバルキャリアフェア in 岩手(アイーナ、岩手産業文化センター) ※参加企業へ広報
12月	12月11日(水) プロジェクトミーティング②(事務局・各大学等)
	12月20日(金) 第3回運営委員会
1月	1月8日(水) 第13期募集要項配布開始
	1月8日(水) 会員企業への協力要請
	1月15日(水) 第13期募集開始
	1月16日(木) 学生募集説明会(岩手大学)
	1月17日(金) 学生募集説明会(岩手県立大学)
2月	2月7日(金) 事務局打合せ(県、県国際交流協会)
	2月19日(火) 岩手県留学生就職支援協議会(事業概要説明、協力依頼)
3月	3月12日(木) 新型コロナウイルスの感染拡大等による留学計画変更等協議

令和元年度「トビタテ!留学 JAPAN 地域人材コース」派遣学生一覧

(学年は申請時)

1	申請プログラム		D 持続可能型地域づくり産業人材育成プログラム		
	氏名等	佐々木 拓渡	岩手医科大学 医学部		5年次
	留学テーマ	ハンガリー ペーチ大学にて医療を学ぶ		留学先	ハンガリー
	留学期間	2020年2月17日～3月27日(1か月) ※3月19日に帰国	インターナンシップ	【事前】岩手県立釜石病院 【事後】県内医療機関(予定)	
2	申請プログラム		B ものづくり産業海外展開人材育成プログラム		
	氏名等	榎原 優太	一関工業高等専門学校 専攻科・生産工学専攻		1年次
	留学テーマ	ロイヤルメルボルン工科大学で行う、漫然運転防止のためのウェアラブル型デバイスの開発		留学先	オーストラリア
	留学期間	2019年8月15日～10月31日(3か月)	インターナンシップ	【事前】(公財)岩手県南技術研究センター 【事後】(公財)岩手県南技術研究センター	
3	申請プログラム		C 交流人口拡大促進人材育成プログラム		
	氏名等	佐々木 毬菜	岩手大学人文社会科学部地域政策課程		2年次
	留学テーマ	大船渡市の活性化を目指す観光のエキスパートへの第1歩プロジェクト		留学先	アメリカ
	留学期間	2019年8月10日～9月30日(2か月)	インターナンシップ	【事前】大船渡市、JF綾里漁業協同組合 【事後】大船渡市、JF綾里漁業協同組合	
4	申請プログラム		C 交流人口拡大促進人材育成プログラム		
	氏名等	田幸 初葉	岩手大学教育学部学校教育教員養成課程 中学校コース 英語サブコース		2年次
	留学テーマ	児童文学を生かした観光		留学先	カナダ
	留学期間	2019年8月12日～9月23日(2か月)	インターナンシップ	【事前】花巻市生涯学習部賢治まちづくり課、花巻観光協会 【事後】花巻市生涯学習部賢治まちづくり課、花巻観光協会	
5	申請プログラム		C 交流人口拡大促進人材育成プログラム		
	氏名等	千葉 夕里奈	岩手大学教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース		4年次
	留学テーマ	表情豊かな自然で伝えるいわて観光の魅力		留学先	カナダ
	留学期間	2019年9月3日～2020年1月31日(5か月)	インターナンシップ	【事前】盛岡市民部文化国際室、岩手県商工労働観光部観光課、IGRいわて銀河鉄道 【事後】盛岡市民部文化国際室、岩手県商工労働観光部観光課、IGRいわて銀河鉄道	
6	申請プログラム		D 持続可能型地域づくり産業人材育成プログラム		
	氏名等	柴田 史那	岩手大学理工学部化学生命理工学科		4年次
	留学テーマ	自然が豊かな岩手県における、木質バイオマス資源の利用による循環型社会の実現をスウェーデンから学ぶ		留学先	スウェーデン
	留学期間	2019年9月2日～2020年1月19日(5か月)	インターナンシップ	【事前】紫波グリーンエネルギー(株) 【事後】紫波グリーンエネルギー(株)	
7	申請プログラム		E 多様性地域人材育成プログラム		
	氏名等	千葉 さりな	岩手大学教育学部学校教育教員養成課程 小学校教育コース		4年次
	留学テーマ	地域に根ざしたICT教育 ～児童の未来を支え、教員に負担の少ない社会を創る		留学先	オーストラリア
	留学期間	2019年9月2日～2020年1月17日(5か月)	インターナンシップ	【事前】岩手県内の小学校、岩手県立総合教育センター、IGRいわて銀河鉄道、リードコナン 【事後】㈱システムエンジニアリング、IGRいわて銀河鉄道、岩手県内の小学校、ルネッサンスルパン、岩手県総合教育センター、リードコナン(予定)	
8	申請プログラム		E 多様性地域人材育成プログラム		
	氏名等	和野 彩月	岩手大学教育学部学校教育教員養成課程 特別支援教育コース		4年次
	留学テーマ	インクルーシブ教育の充実に向けて		留学先	オーストラリア
	留学期間	2019年9月23日～2020年3月20日(6か月)	インターナンシップ	【事前】岩手県内の小中学校 【事後】岩手県内の小中学校(予定)	

佐々木 拓渡

岩手医科大学 医学部医学科 6年

留学先： ハンガリー（ブダペスト、ペーチ）

留学期間： 2020年2月～3月（1か月）



1 留学テーマ

「ハンガリー ペーチ大学で医療を学ぶ」

私は超高齢化に今現在直面している岩手県で将来医療に従事することが決められている。超高齢化の中では患者さんは複数の疾患を抱えており、そんな場で必要とされる、また活躍できる医師は、家庭医・総合診療医と呼ばれるような存在だと考えている。

ハンガリーという国は家庭医というシステムを有する国家であり、そのハンガリーにあるペーチ大学は世界各国から留学生が集まっている医学部であり医療のグローバルスタンダードを学ぶことができる。そして、海外での留学という経験では、国内でのそれでは決して得られないような視野というものを得られるように思う。

こういった背景から、私はこのハンガリーにあるペーチ大学で、特に高齢化した医療現場で重要な疾患群（2週ずつ神経内科・外科と代謝内分泌科）にフォーカスをあてて学習をする、という留学を計画した。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

留学前インターンシップでは、岩手県立釜石病院のご協力の下、岩手の中でも高齢化が進んでいる地域のひとつである釜石医療圏全体の医療の現状を知るためのインターンシップを行った。具体的には県立釜石病院のほか、せいでつ記念病院、国立釜石病院、釜石ファミリークリニック、大野クリニック、釜石保健所、大槌町地域包括支援センターでの実習を行った。

この事前インターンシップでは、まず釜石医療圏の高齢化の現状、つまり高齢化率が40%に迫るという勢いであることを知らされた。そして、そのような状況のもとで、各医療施設がそれぞの他では変えられないような役割を持っており、そのそれぞれが過不足なく存在していることを学ぶことができた。事後インターンシップでは岩手医科大学附属病院での実習を予定しており、岩手の医療、ハンガリーの医療を知っている、という視点から再度実習を行い、その両者の比較や理解を深めていきたいと考えている。

3 留学先での取り組み内容及び成果

ペーチ大学病院での実習に先立って、病院実習をより有意義なものにするためにブダペストの語学学校に 2 週間通いハンガリー語の学習を進めた (2/17-2/28)。ここでは平易なハンガリー語の文法の他、体の部位や症状といった用語を学んだ。

翌週の 3/1 からペーチに移動し、ペーチ大学附属の神経内科・外科クリニックでの実習を行った。このとき既に欧州で COVID-19 が拡大しており、まだハンガリー国内に感染者がいなかつたとはいえ、平時のような実習は行えないとのことで、病棟実習や救急の見学は行えず、手術の見学がメインの実習になった。ここでは比較的 common な疾患の治療（脳腫瘍、椎間板ヘルニア、慢性硬膜下血腫など）を満遍なく見学、学習することができた。しかし、この週の半ばに国内初感染者が発生し、緊急事態宣言が発令され、3/11 に病院での実習は中止となってしまった。そこで、そこから数日間ハンガリー国内での COVID-19 に対する報道や実際の街の様子、政策に対する現地の人の考え方などをリサーチした。病院実習は、当初予定していたものよりも期間も内容もかなり縮小したものになってしまったが、国内初感染者はハンガリー人ではなくiran 人学生であり、これに対する対応や政策は非常に示唆に富むものであり、こういった状況に留学生として現地時実際に身を置けたというのは、何物にも代えられない体験となった。

4 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

この度は、貴重な留学の機会をいただき誠にありがとうございました。留学とは、概してしたほうがいいとは思う、けれども機会もなければハードルも高い、というようなイメージが我々学生の間で膾炙しているように思います。しかし、トビタテ留学 JAPAN というプログラムは、自分の思い描くプランでそれが可能になる、という非常に魅力的なものであり、このプログラムに対して理解を頂き支援してくださったおかげで、これらが実現しているということにいたく感動しております。地域人材コースで応募している学生はみな、明確な目的をもって留学をし、大きく成長して、岩手に大いに貢献をすると信じております。ぜひ、来年度以降もご支援賜りますよう、ご協力していただけたらとても嬉しく思います。

5 留学費用について

【総費用】約 56 万円（渡航費 24 万円（復路キャンセル→新しいチケット取得のため足が出了ました）、学費 12 万円、宿泊費 10 万円、食費 5 万円、その他雑費 5 万円）

【費用負担】留学奨学金 約 44 万円（渡航費 20 万円、学費 12 万円、生活費 12 万円）

6 語学力について

【必要とされる語学力】英語；かんたんな日常会話と医学用語は必須

【語学力の向上】英語；医学用語を使った会話が可能になった他、英語を使った会話・意思疎通も以前よりも流暢に行えるようになった。

ハンガリー語；簡単な自己紹介や会話が可能となった。

さかきばら ゆうた
榎原 優太

一関工業高等専門学校 専攻科 生産工学専攻 2年

留学先： オーストラリア（メルボルン）

留学期間： 2019年8月～10月（3か月）



1 留学テーマ

「漫然運転防止のためのウェアラブル型デバイスの開発」

留学のテーマは漫然運転防止のためのウェアラブル型デバイスの開発です。私は現在学校で、高齢者の交通事故防止のためのウェアラブル型のデバイスの開発の研究を行っています。岩手県は首都圏と比べ、公共交通機関が充実していないため、車を所有する家庭の割合は多く、高齢者でも車を所有し運転しています。また、岩手県は高齢化率が平成30年に32.5%で、高齢者の割合が年々増加傾向にあり、同時に高齢者ドライバーの人数も増加しています。これらのデータから、これからは高齢者の事故が増えることが予想されます。高齢者の交通事故の主な原因に漫然運転という、集中力がかけた状態で車の運転をしてしまうというものがあります。この漫然運転をしてしまう高齢者が減れば、交通事故も減ると考え、漫然運転を減らす装置の開発をテーマにしました。この研究は共同研究としてオーストラリアでも行っているため、実験を共同研究先であるオーストラリアのロイヤルメルボルン工科大学 RMIT (Royal Melbourne Institute of Technology) で行いました。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

留学前後に、岩手県南技術研究センターでインターンシップをさせて頂きました。岩手県南技術研究センターでは、地元企業の地域企業の人材育成事業として、様々な講座を開催しています。私は、たくさんある講座の中で3次元CAD講座に参加させていただきました。3DCAD講座では、Fusion360というCADソフトを用いて、スケッチ、モデリング、図面作成の方法を学びました。装置を開発する際、3DCADを使って試作品を作製したので、講座で教えて頂いた知識が留学先で役に立ちました。

また、岩手県南技術研究センターは地域企業の研究開発力、技術力の向上を支援するために設立されたセンターとなっています。インターンシップ中にも様々な地元企業の方がセンターに部品検査、部品の成分分析のために来られました。そこで企業の方のお話しを聞かせていただける機会もありました。生活するうえで必ず必要な製品の部品の作製、普段生活していれば必ず目に入るものを作製している企業が多く、様々な企業が地域を支えているということを実感することができました。

3 留学先での取り組み内容及び成果

留学先では漫然運転を防止するためのデバイスの開発、実験をメインの活動として行いました。

た。結果としては今回作製した試作品ではうまくいかず、改良をする必要があることが分かりました。留学先のロイヤルメルボルン工科大学で研究・実験をする経験を通して、外国の先生や、学生の意見も聞き、様々なアドバイスを頂きました。外国人の方で日本人と違う感性を持っている人もいたため、とても新鮮な意見が多く、研究に対する視野が広がりました。また、日本では使用したことがない装置も使わせて頂きとても勉強になりました。オーストラリア人だけでなく、中国人、イラン人、インド人など、様々な国籍の方がオーストラリアには住んでいて、オーストラリアの文化だけでなく、様々な国の文化を学ぶことができて、とても良い経験になりました。

4 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

留学ではとにかく日本でやったことがないことをしてみたいと思っていました。3ヶ月ほど留学するのが初めてでしたし、海外で実験をしたり、世界遺産に行ったりしました。今までやったことがないことをやるときには不安な部分もありましたが、実際やってみたら、新しい世界が広がっていて、自分の視野も広がったように思い、結果やってよかったです。この留学での経験から、どんなことにも躊躇せずにチャレンジする強さが身に付きました。渡航後すぐは、学校での手続きや友達作りなどのすべてが不安でしたが、自分がしなければ誰かが手伝ってくれるわけではないと覚悟を決め、人に甘えることなく自分の道を歩んでくることができました。そしてこれからは留学した経験を今後に生かせるように頑張ります。私の留学を支えてくださったみなさん本当にありがとうございました。

5 留学費用について

【総費用】 56万円

(渡航費 10万円、家賃 15万円、食費 10万円、旅行費と国内移動費 10万円、雑費・交際費 11万円)

【費用負担】 留学奨学金 56万円

【現地で使ったお金の割合】 現金 20%、クレジットカード 80%

6 語学力について

リスニング力が留学前後で格段にアップしました。しかし、まだネイティブスピーカーの英語を聞き取るのはとても難しいです。何回も聞き返したり、それでもわからないときは書いてもらってそれを辞書で調べたりすることもあって大変でした。アウトプットの面では、自分の意見を簡単な英語やジェスチャーを使って伝えられるようになりました。日本に興味がある外国人と話すとかなり会話が弾むことも分かりました。

ささき まりな
佐々木 梢菜

岩手大学 人文社会科学部 地域政策課程 3年

留学先： アメリカ（シアトル）

留学期間： 2019年8月～9月（2か月）



1 留学テーマ

「大船渡市の活性化を目指す観光のエキスパートへの第1歩プロジェクト」

私の关心テーマは地方の問題である。少子化、高齢化、財源不足と地方の課題は山積みであり、今後ますます深刻になっていくだろう。そこで地元の大船渡市と自分が今後出来る関わり方を考えたときに、まちづくりに携わる人になりたいと心から感じた。東京オリンピック開催予定という現状からインバウンドに着目し、また大船渡市の強みである海を生かした観光を促進させたいと考えた。したがって地形等の条件が似ていてかつ観光業が盛んなアメリカ・シアトルを訪れ、ツアーハウスでインターンを行いながら、観光に関する歴史から今の具体的な政策、そして外国人の海産物への嗜好について学びたいと考えた。この経験を踏まえて自分が目指す“大船渡市を担う観光のエキスパートになる”ための第1歩をきりたいという思いでこの留学テーマを設定した。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

大船渡市役所様、綾里漁協様に協力を頂き、事前事後インターンシップを実施した。事前インターンシップでは、自慢の海産物や観光地について改めてよく知る機会を頂いたり、実際にそれらを市のtwitterで発信する広報の仕事をさせて頂いた。もののPRの仕方同様売り方も重要なポイントであることを学んだり、反応をチェックすることでより良い広告の仕方を模索することが出来た。また事後インターンでは、大船渡市のまちづくりについて発表させて頂いた。学びを共有するとともに、交通面等の課題の解決案、インバウンドを促進するための政策を提案させて頂いた。その後観光課の職員さんと意見交換を行い、地方創生を行う上での外(ex日本の政治制度)と内(ex地元民によるよそ者排除)の壁について知った。また特に主張した「おもてなし×ユニーク性」「体験型観光のpusshu」については参考にする、という意見を頂けたのでとても嬉しかった。

3 留学先での取り組み内容及び成果

主な取り組み内容を3つ挙げる。①ツアーハウスのインターンとしてインバウンド業務のお手伝いをさせて頂く ②観光スポットのパイク・プレイス・マーケットで売り手と買い手17組にインタビューを実施 ③語学学校の皆さんに大船渡市の海産物（加工品）を食べてもらう それぞれの成果は、①月に1回日本の旅行会社やシアトル旅行・ビジネスを計画しているお客様に対してnews letterを制作した。アドバイスや過去のものを参考にしながら満足のいくもの

を最終的に作ることができた。②当市場はフィッシュ哲学を取り入れ急激に発展した。売り手のインタビューからはフィッシュ哲学の効果、売る時の工夫など戦略面について学ぶことができた。一方買い手のインタビューでは、有名な市場でも大半のお客さんは地元民であることが分かった。この結果はとても衝撃的なものでインバウンドのみに焦点を当てていた自分の考えを1から見つめ直す良い機会となった。③見た目や食感、加工品の海産物と甘い砂糖の味が受け付けない、とネガティブな意見が比較的多かったので、日本人の感覚とは異なることを知った。外国人をターゲットとしたお土産を新たに制作してみたいという新たな興味が生まれた。当初目標としていた広告や交通、外国人の嗜好そして観光の成功例について調査することができた。他にも震災トピックやシアトルが推進するLGBTに関する政策についても話を伺うことができたので、観光とは異なる角度からまちづくりについて考えることができた。



4 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

当プログラムは留学で自分の関心テーマを探求することができるため、学生として留学をより実り多きものにするそんな魅力あふれるプログラムだなと感じます。時には設定した取り組み内容が異国の地で果たして実行できるかどうか不安になることもありましたが、ある種の使命感を感じ挑戦できたことで非常に大きな満足感・達成感を得ることができました。また留学中大変だったことも多々ありましたが、インターンの方々を始め、現地でできた友達にサポートをして頂き、帰国する時に楽しかったと思える留学になりました。非常に親切で今でも関係が続く素敵な方々と出会えたことは私の一生の宝物です。この留学は自分の転機となるような素敵な経験でした。このような機会を与えて下さった協賛企業の皆様、関わって下さったすべての方々に大変感謝致します。本当にありがとうございました。将来の目標を達成しまちづくりに携わる中で、大船渡市そして岩手県に貢献、還元できるように精進して参ります。

5 留学費用について

【総費用】70万円

(内訳 渡航費 20万円、学費 20万円、宿舎費（ホームステイ）11万円、食費 5万円、保険料・OSSMA3万円、ポケット WIFI レンタル代 1万円、生活費 10万円)

【費用負担】留学奨学金 76万円

【現地で使ったお金の割合】現金 40%、プリペイドカード（master card）60%

6 語学力について

【留学前】現地の人の英語のスピードについて行けない、すぐに言葉にすることができない

【留学後】日常会話レベル

ルームメイトや語学学校の先生とはディスカッションできるほどスピーキング能力が上がった、リスニングは時々聞き取れないことはあるがニュアンスで理解できるようになった。

た こう う ぶ は
田幸 初葉

岩手大学 教育学部 学校教育教員養成課程 3年

留学先： カナダ（プリンスエドワード島）

留学期間： 2019年8月～9月（1か月半）



1 留学テーマ

「児童文学を用いた観光」

私の留学内容は、岩手の偉大な文豪である宮沢賢治を生かした観光の促進をするというものです。私が岩手に進学したとき、岩手の街中にはいたるところに「宮沢賢治」という文字や彼の作品を目にしました。私の好きな作家である宮沢賢治が岩手の観光に大きく関与していると知り、そこから岩手の観光について興味を持ち始めました。またほかの国でも作家やその作品を用いた観光をしている国があるのではないかと思いました。

私の留学先はカナダのプリンスエドワード島です。ここは「赤毛のアン」の舞台であり、また作者のルーシーモード・モンゴメリの生まれ育った地です。ほかにも文学作品や作者を観光促進に活用した観光都市は多くありました。プリンスエドワード島の人口や面積などを比較した際に、ほかの都市よりも岩手に類似する点が多かったため、より比較しやすいと考えこの場所を選びました。この地に留学し、現地の観光の様子を自分自身で見聞きし体感することで、岩手の宮沢賢治を用いた観光と、カナダ；プリンスエドワード島の「赤毛のアン」を用いた観光を比べることが出来ると考えました。またそこから岩手の文学を用いた観光の問題点や、さらなる改善点を発見し、岩手の児童文学を用いた観光の促進をサポートすることが出来るのではないかと考え、留学を決意しました。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

留学の事前・事後は花巻観光協会様、花巻市役所生涯学習部賢治まちづくり課様へ行きインターンシップをさせていただきました。事前インターンシップでは3つの点から岩手の児童文学を用いた観光について学びました。1つ目は宮沢賢治を用いた観光の現状を知ることです。これは宮沢賢治ゆかりの地に実際に行き、インタビューや見学から宮沢賢治を用いた観光についての理解を深めました。2つ目は花巻市の課題観光について学ぶことです。これは、宮沢賢治だけでなくほかの花巻市の観光資材にどのようなものがあるか、また花巻市の観光業の特徴などを学びました。3つ目は観光資源の使用方法や、発信の仕方について学ぶことです。これは主にSNSを用いた発信方法でどうしたら多くの人が興味を持つかなどを学びました。事後インターンで行ったことは2つあります。1つ目はカナダのインターン先で学んだことや、自分が赤毛のアンに関係する地へ行き外国人の私から見ても魅力的な商品やインバウンドに対する環境設備などで気づいたことを日本のインターンシップ先に情報共有すること。2つ目は私が考えた花巻市での商品等の立案について関係者の方と意見交換や協議することです。これらにより、岩手の文学を用いた観光における宮沢賢治の《観光資源》としての在

り方を確認しました。成果としては花巻市役所様では、まちづくりアイデアやインバウンド整備について話し合い、花巻観光協会様では宮沢賢治と農業という体験型のツアーや銀河鉄道の夜をイメージしたはがきなどの新商品の企画を提出いたしました。今後も花巻を中心に岩手の文学を用いた観光がより良いものになるサポートをしたいと考えています。

3 留学先での取り組み内容及び成果

留学先で行ったことは3つあります。1つ目はインターン先でのインタビューや、自分で作成したアンケートによるプリンスエドワード島の観光客のニーズ調査です。2つ目はツアーハウスでのインターンを通して、島を上げた『赤毛のアン』を用いた観光の現状把握をすることです。3つ目は島で生活をする中で岩手の文学を用いた観光との差異は何かを考えることです。

成果としましてはインタビューやアンケート調査の結果や、「赤毛のアン」の商品やツアーハウスでも還元可能なお土産や食べ物、ツアーハウスのアイデアや情報を得ることが出来ました。

4 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

この度は貴重な留学の機会をいただき、誠にありがとうございました。私は外国へ行くのも初めてであり右も左も分からず、初めは本当に自分の留学が成功するのかと不安な部分が多くありました。また他のトビタテ生のレベルの高さから、自分は留学できるのだろうかと劣等感から押しつぶされそうな時期もありました。しかし、岩手大学国際課のみなさまや、尾中教授をはじめとするさまざまな先生のお力を借りし、花巻観光協会様、花巻市生涯学習部賢治まちづくり課様のご協力のおかげで留学が実現することができました。実際に飛行機が飛び立ち留学を開始したときの感動は今でも忘れられません。このような素晴らしい機会を与えてください本当に感謝しております。今後、ご協力いただきましたみなさまへの貢献に尽力いたしたいと思います。

5 留学費用について

【総費用】65万円

(内訳 渡航費 24万円、学費 18万円、宿舎費 11万円、食費 2万円、
保険料 5千円、土産代他 10万円)

【費用負担】自己負担 17万円、親からの支援金 10万円、留学奨学金 38万円

【現地で使ったお金の割合】現金 25%、クレジットカード (VISA) 5%
トラベルプリペイドカード (みぢか) 70%

6 語学力について

【現地で使用した言語】英語

【語学レベル UP】自分の考えたことは、つたない言葉でも伝えられるようになり、留学当初よりも流暢に会話ができるようになりました。

【適正レベル】日常会話レベル

(間違っていたとしてもとにかく会話することが大切だと思います。)

ちば ゆりな
千葉 夕里奈

岩手大学 教育学部 学校教育教員養成課程 4年

留学先： カナダ（バンクーバー）

留学期間： 2019年9月～2020年1月（5か月）



1 留学テーマ

「表情豊かな自然で伝えるいわて観光の魅力」

留学生から、留学先が岩手に決まるまで岩手のことを全く知らなかったという話を聞いたことや、日本全体としては世界的に観光地として人気があるにも関わらず、岩手は日本の中の人気観光地としてはいつも下位であることから、岩手の認知度や発信力を問題視しました。そして、岩手の魅力を世界中の人々にも理解してもらえるよう、岩手で生まれ育った私が働きかけたいと考えました。そこで、数多くの岩手の魅力の中でも四季を明確に感じられる自然を活かして世界に発信したいと思い、留学テーマを設定しました。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

留学前後に岩手県商工労働観光部観光課様、盛岡市市民部市民協働推進課文化国際室様、IGR いわて銀河鉄道様でインターンシップをさせていただきました。

事前インターンシップとして岩手県商工労働観光部観光課様では、岩手県の外国人観光客の傾向やインバウンドの取り組みについて学びました。盛岡市市民部市民協働推進課文化国際室様では、盛岡市の国際交流の現状について学び、盛岡市内の観光地を視察しました。IGR いわて銀河鉄道様では、KAKEHASHI PROJECT の添乗をさせていただきました。そのプロジェクトでは、カナダとアメリカから訪日された高校生とともに、岩手の観光地を巡りました。

事後インターンシップでは留学成果を報告させていただきました。自分が留学で学んだことや感じたことについて「多文化社会の度合いがバンクーバーと異なる岩手でも無駄にならない、且つグローバル化を促進できる、岩手にも取り入れられる多文化社会への対応は何だと思うか」など客観的な視点から意見や質問をいただき、多面的に留学の反省をすることができました。また、新たなツアーにも参加させていただき、留学前とは異なった視点から岩手の観光業を見つめなおすことができました。

3 留学先での取り組み内容及び成果

留学中、最初の1か月間は語学学校へ通い、英語力の向上に努めるとともに、学校で開催されている授業後のアクティビティにも参加し、さまざまな国籍や宗教、性格の方が集まる中で全員が楽しめるような国際交流活動について学びました。残りの4か月間は Discover Canada

Tours という現地旅行会社で主に営業としてインターンシップをしました。朝にオフィスでミーティングを行った後、午後4時半まではクライアント先である語学学校で語学学生へ向けてツアーのPRをしたり、ツアーを売ったりしました。その後オフィスへ戻り、カウンターで閉店時間までツアーの予約業務を行います。さまざまな国籍のお客様に対してツアーの説明をしたり、質問を受けたりする中で、お客様の国籍によってツアーの質や料金、アレンジの柔軟性など、予約時に重視していることが異なることが分かりました。また、SNSでツアーのPRをする中で、よりお客様の興味を惹きつける手法を学ぶことができました。



4 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

この度は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。留学を終えて、留学の目標を明確にする上でも金銭的にも、この制度がなければ成し遂げられないものだと実感しました。この制度に参加するため、留学計画を念入りに練ったことにより、留学すること自体に満足して目標を見失ったり、漠然とした気持ちで留学生活を送ったりすることを防げたと思います。また、この制度に多くの企業様が協賛してくださることから、自分だけの留学ではないと良い意味でプレッシャーを感じ、モチベーションに繋がりました。留学計画後発生した問題により、一度は辞退の二文字が頭をよぎったこともありましたが、協議会の皆さまや岩手大学国際課の皆さまをはじめとした沢山の方々のご支援のおかげで、無事留学を終えることができました。今後、支えていただいた方々に感謝の気持ちを行動で表せるよう、日々前進して参ります。

5 留学費用について

【総費用】97万円+土産代他

(内訳) 渡航費 20万円、学費 15万円、宿舎費(4か月) 22万円、食費(4か月) 25万円、ホームステイ代(1か月) 8万円、保険料・OSSMA3万円、携帯代 2万円、定期券代 4万円

【費用負担】自己負担 4万円+土産代、留学奨学金 93万円

【現地で使ったお金の割合】現金 15%、クレジットカード 85%

6 語学力について

【現地で使用した言語】英語

【語学レベル UP】お客様からのツアーについての質問に対して、英語で受け答えしたり、会社内でのミーティングで内容を理解し、自分の意見を発言したりできるようになりました。会話をするときには相槌だけでなく、自分の意見を文章にして伝えるように心がけていました。

【適正レベル】日常会話レベル

しばた ふみな
柴田 史那

留学時：岩手大学 理工学部 化学生命理工学科 4年
岩手大学大学院 総合科学研究科 理工学専攻 1年

留学先： スウェーデン (ベクショ、カルマル)
留学期間： 2019年9月～2020年1月 (5か月)



1 留学テーマ

「自然が豊かな岩手県における、木質バイオマス資源の利用による循環型社会の実現をスウェーデンから学ぶ」というテーマの元、留学を行った。私は化学工学を専門としており、将来は化学工学の視点から環境問題の解決に貢献したいと考えている。現在、日本ではエネルギーの多くを化石燃料に依存している。しかし、化石燃料は有限な資源であるため、今後の産業の発展には持続可能なエネルギーの利用の促進が重要であると考える。岩手県は森林資源が豊富であるため、木質バイオマスの利用が有効であると考えた。

私が留学先として選んだスウェーデンは岩手県と同様、自然が豊かで森林資源が豊富な国であり、更に木質バイオマスエネルギーの利用が進んでいる。スウェーデンで木質バイオマスエネルギーがどのように導入されてきたのか知ることで、岩手県の木質バイオマスエネルギー利用の発展に貢献できればという思いで、テーマを設定した。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

事前・事後共に「紫波グリーンエネルギー株式会社」さんの元でインターンシップを行った。事前インターンシップでは、主に調査を行った。再生可能エネルギーを電力会社が買い取るFIT制度についての調査や、実際に木質バイオマスエネルギーによる熱供給や熱電併給を行っている事例の調査をしたことで、どのように資源、エネルギー、利益を循環させているのか、更に、バイオマスエネルギー導入のための基本的な制度や地域間の連携の全体像を知ることができた。事後インターンシップでは、データ整理や打ち合わせへの参加を行った。最終的にはバイオマスエネルギー利用の促進のための案を作り、プレゼンテーションを行った。それらの案について、社員の方々と議論をし、意見をいただいた。留学を通じて感じたことを伝え、解決策の1つとして検討していただいたことで、受け入れ企業先の活動の選択肢を増やすことに貢献できたと考えている。

3 留学先での取り組み内容及び成果

留学先では、環境に関する講義を受講すると共に、バイオマスエネルギーを専門分野としている教授へのインタビュー、エネルギー会社の「VEAB」さんへの企業見学、バイオマス資源を利

用した製品開発を行っている「ストラエンソ」さんへの企業見学を行った。

活動を通して知ったことは主に以下の二点である。まずスウェーデンでは日本と異なり、機械導入による大規模な伐採、発電・熱供給が行われていること。植樹と伐採のサイクルを17年で行い、広大な勾配の小さい土地で産業的にエネルギー産出をしていた。次に、市民の環境に対する意識の差を感じた。スーパーにペットボトルのデポジットの制度があり、市民が日常的に環境保護のための活動を行える環境にあること、大学の講義に持続可能に関わる授業が多く存在することがその理由として挙げられる。

留学中の活動を通じて、林業における規模の違いや、市民の意識の差において、日本とスウェーデンの違いを感じた。そのことから、岩手では、地域分散型の事業を進め、地域に還元できるようなモデルを設置し、住民にバイオマスエネルギーや環境問題を身近に感じてもらう環境作りを進め、日本におけるバイオマス利用の先駆けとなるように地域の活性化を図る事が良いと結論づけた。



4 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

本留学支援制度の厚い支援により、資金に余裕を持つことができ、学業や実践活動に集中することができた。また、研修を通して夢や目標を持つすばらしい仲間と出会い、多様な考え方触れ、自分の理想や信念と向き合う機会も得られた。今後も学んだことや経験したことをいかし、目標を達成するために日々精進していきたい。

この留学は多くの方々のたくさんの協力の上に実現したものである。協力していただいた全ての方に心より感謝を申し上げたい。そして支援をして頂いた方々への感謝を忘れず、社会貢献をすると共に、その期待を受け継ぎ、次の世代への支援をしたいと考えている。

5 留学費用について

【総費用】100万円

(内訳 渡航費 20万円、宿舎費 25万円、食費 8万円、保険料・OSSMA 6万円、SIM 2万円、交通費 8万円、日用品 3万円、雑費 3万円、娯楽 5万円、旅費 20万円)

【費用負担】留学奨学金 100万円

【現地で使ったお金の割合】現金 2%、クレジットカード (VISA) 98%

6 語学力について

留学前：基礎的な日常会話が可能

留学後：英語の講義の概要を理解でき、一般的な日常会話が可能/基礎的なスウェーデン語

ちば 千葉 さりな

岩手大学 教育学部 学校教育教員養成課程 4年

留学先：オーストラリア

(メルボルン・ブリスベン・ゴールドコースト)

留学期間：2019年9月～2020年1月(約5か月)



1 留学テーマ

「地域に根ざした ICT 教育～児童の未来を支え、教員に負担の少ない社会を創る～」

社会の情報化が進み、教育にも ICT を使った授業が推進されるようになりました。私は、多くの教員が不安とする ICT を使った教育や、英語教育を ICT 教育先進国であるオーストラリアで学んできたことを生かし、小学校教員の一助として、学校教育の活性化に寄与していくことを目標としています。児童の発達段階に見合った ICT の活用方法を研究し、多くの教員が推進していきたいと思えるような ICT を活用した授業を見つけ、共有していきたいと思い、このテーマを設定しました。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

事前インターンシップでは、岩手県内の小学校の ICT 教育環境を視察したり、教員に ICT に対するアンケートを取ったりして、日本の学校教育において ICT がどのように整備され、どう使われているのかを学びました。また、学校の ICT 教育に関わる企業の方でもインターンシップをさせていただきました。現在、学校の ICT 機器が普及段階であることから、企業と学校が密に連携する機会があまりない状態であったり、講座や研修を行う際は、教員の負担を考え、オンライン形式で行ったりしていることを知りました。

事後インターンシップでは、ICT に関わる企業の方で、オーストラリアの学校教育で得た経験から、「一人で ICT 機器を使うよりも、ペアやグループで使う方が、教員の目が届きやすく、より円滑な授業が行われる傾向にある」・「導入の段階で ICT の良さを生かした、動きや音声のあるものを扱うことで、児童の興味関心を引き出し、学習意欲向上につなげることができる」といった点を報告させていただきました。また、現在日本の学校教育でよく使用されているスクラッチというアプリを使って教材作りに取り組み、一連の流れを理解するときに用いることが効果的という点に着目し、それに対する提案をいただいたことで、教員として授業を行う上の知識をたくさん蓄えることができました。

さらに、英語を使っての授業を経験してきたことを生かし、企業のイベントで児童への異文化理解に関する活動を行わせていただきました。

3 留学先での取り組み内容及び成果

(メルボルン) モナシュ大学では ICT を使った教材の活用方法、操作方法を学びました。日本語と英語を使うバイリンガルの小学校では、教員アシスタントとしてすべての学年に配属させ

ていただき、授業のサポートを行いました。また、ICT 専門の教員からは、各学年に応じた ICT 教材の使い方や、カリキュラム構成などを学び、海外と日本の教育体制の違いを実感しました。

(ブリスベン) 少人数の私立小学校だったので、一人一台パソコンを使用できる環境が整っていました。高学年になると、パワー・ポイントで資料を作成し、プレゼンテーションを行う場面も見られました。私自身、アシスタントも含め、日本語の文化を伝える授業を担当させていただいたことで、児童や教員に日本への興味・関心を引きだすことができました。



(ゴールドコースト) 主に ICT を使った英語教育を学び、体験させていただきました。低学年を担当したので、主に絵本と ICT を両方使っての授業を行いました。低学年では生活に馴染みのある絵本が効果的で、中学年から ICT を積極的に活用することで、学習への興味・関心をより高められることがわかりました。

4 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

今回、留学という大きなチャレンジを通して、トビタテ留学担当の方々をはじめとし、岩手大学国際課の方々、IGR 様、リードコナン様、ルネッサンスルパン様など多くの方々にサポートいただいたことに感謝申し上げます。事前準備の段階で、自分で計画を立てたり、留学先の学校に連絡を取ったりと、大変だった思い出は多々あります。留学中は、言葉や文化の壁に苦労することもありましたが、ここでも現地の人たちの優しさやサポートのおかげで、苦難を乗り越えることができました。海外での生活を経験して、外国の良さや日本の良さの両側面を肌で実感し、教育に関して学び、体験してきたことを、小学校教員の一助として発信できるよう、今後も全力で頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

5 留学費用について

【総費用】120 万円

(内訳：渡航費 12 万円、移動費 3 万円、交通費 4 万円、学費 40 万円、住居費 40 万円、食費 10 万円、保険料 4 万円、交際費 7 万円)

【費用負担】自己負担 22 万円、留学奨学金 98 万円

【現地で使ったお金の割合】現金 30%、クレジットカード (VISA) 70%

6 語学力について

【現地で使用した言語】英語

(現地での語学学習期間 5 週間)

【語学レベル】留学前：日常会話ができる程度

留学後：日常会話に加え、授業で発言ができる程度

わ の さ つき
和野 彩月

岩手大学 教育学部 学校教育教員養成課程 4年

留学先： オーストラリア（ケアンズ）

留学期間： 2019年9月～2020年3月（6か月）



1 留学テーマ

「インクルーシブ教育の実現に向けて」

インクルーシブ教育システムとは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みのことです。

私は、中学校時代に特別支援学級に在籍する同級生とうまく関われず居心地の悪さを感じたこと、高校時代に視覚支援学校の生徒と交流し、誰しも何でもできる可能性があると気づいたこと、大学での実習で交流級に行きづらそうにする生徒の姿を見たことをきっかけとし、関わり方が分からぬから繋がれないという状況を解消し、多様な人ともっと繋がれるようになれば素敵だろうという思いをもちました。そのためには、子どもに対する教師の指導や支援が不可欠であり、その背景には明確な教育的意図が必要です。

そこで、子どもが多様な人と繋がれることを目指しどのような意図によって実践をしているのか、現場の教師に学ぼうと思いました。また、豪州におけるインクルーシブ教育では障害に限らず人種や貧困、怠学など広く対象にしています。日本とは、インクルーシブ教育の対象に関する様相の異なる豪州ですが、両国の教師の教育的意図について対照し、その異同を明らかにすることで、日本のインクルーシブ教育を捉え直したいと思い、このテーマを設定しました。

2 事前事後インターンシップでの取り組み内容及び成果

事前インターンシップでは2特別支援学級2通級指導教室2分教室を参観・参加させていただき、それぞれの担当教師にインタビューをさせていただきました。共通して見えてきたのは、対象の子どもを単に集団に入れればいいのではなく、集団に入るための準備が必要だという考えでした。対象の子どもと周囲の子どもとの円滑な関係については、幼い頃から互いの姿を見て育っていること、必要な場合には、周囲の子どもに対し対象の子どものことをきちんと説明をすることがポイントのように思われました。分からぬから不安になりうまくいかない状況になってしまふため、そこをほぐすことが、教師の重要な役割の一つだと考えられました。

事後インターンシップは、新型コロナウイルス感染防止への対応が求められる中、まだ実施できておりません。留学先では、少人数学級だからできることではあります、授業中に違う作業をしている人がいて当たり前の状況を作っていました。そのため個人の進度が気にならず、速い子どもは進んだり、一度止まって他の子どもの先生役となり自信をつけたりしていました。そのようなばらばらの良さを伝えられたらと思います。

3 留学先での取り組み内容及び成果

私立の小中高一貫校で中高等部において、主として日本語教師アシスタントとしてインターンシップをさせていただきました。他にも、ラーニングサポート、小学部の日本語の授業、放課後学童や附属された幼稚園で活動をさせていただきました。ラーニングサポートでは英語やビジネスの授業に補助として加えてもらい、1対1でサポートをしました。私は、自身の拙い英語では、サポートとしての信頼を得られるかが不安でしたが、私の母語である日本語の授業で子ども達と関わることができたおかげで、サポートとして受け入れてもらうことができました。また、インターナショナル担当の先生の計らいで日本人留学生のサポート役をさせていただき、留学生の困りごとを解消するための調整をするという経験もすることができました。

対象の子どもと周囲の子どもとの円滑な関係という面では、小中高一貫校であり、周囲の子どもは幼い頃から一緒にいることで対象の子どもへの理解があり、その子どもが支援を受けていることが周りにとって極めて自然であるという日本で感じたのと同じ印象が得られました。また、学級の生活場所としての教室がなく、休み時間は生徒が廊下におり、先生が歩きながらインフォーマルな会話で生徒同士の関係調整ができるということも強みに感じました。

4 本留学支援制度に参加しての感想・協賛企業へのメッセージ

この度は貴重な留学の機会をいただき、誠にありがとうございます。この留学は、準備段階から自分のやりたいことと真剣に向き合うことを求められました。挫けそうになるなかで、大学職員の皆様、インターンシップでお世話になった先生方、子ども達、友人から、何度も後押しを頂きました。留学先でも自分の無力さを感じる中で先生方、子ども達、友人、ホストファミリーに支えられ、共に働き、生きることができました。沢山の託される思いがあり、見えないバトンを繋がれたようなイメージです。これらの経験は間違いなく私の財産となりました。すべてはひとえに、本留学制度にご理解とご協力を頂いております皆様のおかげだと感じております。今後、バトンを繋ぐことによって精一杯の恩返しをさせていただきます。

5 留学費用について

【総費用】114万円

(内訳: 航空費 9万円、語学学校 27万円、家賃 28万円、交通費 8万円、食費 12万円、保険料・OSSMA 7万円、ビザ申請料 4万円、生活用品 4万円、旅行費 8万円、土産代 7万円)

【費用負担】留学奨学金 119万円

【現地で使ったお金の割合】現金 20%、クレジットカード 10%、デビットカード 70%

6 語学力について

【現地で使用した言語】英語、日本語

【語学レベル UP】社会的な話題について説明したり議論したりできるようになり、英語で相手の価値観に迫るような会話ができるようになりました。

【適正レベル】準上級レベル

「ふるさと発見!大交流会 in Iwate 2019」へのブース出展

岩手に定着し活躍する若者を増やすことを目的に、県内大学や経済団体が連携し実施した「ふるさと発見!大交流会 in Iwate 2019」に岩手大学と連携し協議会ブースを出展。海外派遣を終えた学生からの留学生支援事業の紹介や自己の留学体験を来場者に広くPRしました。

【イベントの概要】

ア 主 催	ふるさと発見!大交流会 in Iwate 実行委員会、ふるさといわて創造協議会
イ 開 催 日	令和元年 11 月 23 日(土)
ウ 会 場	岩手産業文化センター(アピオ)
エ 参 加 者 数	約 1,500 名
オ ブース出展数	151 団体



「いわてグローカル人材育成推進協議会」会員企業・団体（50音順）

第1号会員

団体

公益財団法人岩手県観光協会	一般社団法人岩手県建設業協会	岩手県商工会議所連合会
岩手県商工会連合会	岩手県中小企業団体中央会	

企業

I G R いわて銀河鉄道株式会社	株式会社アイカムス・ラボ	アイシン東北株式会社
株式会社アイビーシー岩手放送	いわぎん事業創造キャピタル株式会社	株式会社岩手エッグテリカ（サラダファーム）
株式会社岩手銀行	株式会社岩手県北自動車	株式会社岩手日報社
株式会社岩手ホテルアンドリゾート	株式会社いわてラボ	及源鑄造株式会社
株式会社北日本銀行	株式会社ゴーイングドットコム	さいとう製菓株式会社
三陸鉄道株式会社	JL-GLOBA 株式会社	株式会社 JT B 盛岡支店
株式会社十文字チキンカンパニー	白金運輸株式会社	株式会社西部開発農産
株式会社千田精密工業	株式会社中央コーポレーション	株式会社テレビ岩手
株式会社東北銀行	株式会社トーノ精密	株式会社ナレロー
株式会社南部美人	株式会社日ビス岩手一関工場	株式会社ニュートン
八幡平リゾート株式会社	花巻温泉株式会社	株式会社ベスト
株式会社ミクニ	みちのくコカコーラボトリング株式会社	盛岡ターミナルビル株式会社
株式会社長島製作所	株式会社盛岡地域交流センター	株式会社柳家
谷村電気精機株式会社	リコインダストリアルソリューションズ株式会社花巻事業所	和同産業株式会社

機関

岩手県	岩手大学	公益財団法人岩手県国際交流協会
-----	------	-----------------

第2号会員

団体

一般社団法人岩手経済同友会	一般社団法人岩手県医師会	岩手県森林組合連合会
岩手県中小企業家同友会	いわて高等教育コンソーシアム	公益財団法人いわて産業振興センター
独立行政法人国際協力機構東北センターJICA 岩手テスク	公益財団法人ふるさといわて定住財団	

企業

株式会社アイシーエス	岩手県空港ターミナルビル株式会社	岩手県産株式会社
株式会社岩手めんこいテレビ	川嶋印刷株式会社	けせんプレカット事業協同組合
株式会社小林精機	サンポット株式会社	株式会社ジャパンセミコンダクター
株式会社タカヤ	株式会社デンソー岩手	株式会社東亜電化
東京エレクトロン テクノロジーソリューションズ株式会社	東京海上日動火災保険株式会社盛岡支店	東北電力株式会社岩手支店
富士ゼロックス岩手株式会社	富士通株式会社岩手支店	株式会社ユアテック岩手支社
株式会社吉田測量設計		

市町村

盛岡市	大船渡市	花巻市
北上市	一関市	奥州市
雫石町	紫波町	矢巾町
西和賀町	軽米町	

いわてグローカル人材育成推進協議会

令和2年6月

Email glocal-iwate@iwate-ia.or.jp

URL <https://iwate-glocal.jp/>

- 岩手県ふるさと振興部国際室内 〒020-8570 盛岡市内丸 10-1
TEL 019-629-5765 FAX 019-629-5254
- (公財) 岩手県国際交流協会 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター（アイーナ）5階
TEL 019-654-8900 FAX 019-654-8922